

民間関係団体等との調整状況等について

1 「コンパクトシティ形成」に関する説明会

- 「コンパクトシティ形成に向けた取り組み」について、民間関係団体（別紙 1 の団体）向けに説明会を実施。
 - ・日 時 平成 27 年 12 月 22 日（火）14：00～15：30
 - ・場 所 生涯学習センター3F ホール
 - ・配布資料 ◇コンパクトシティ形成に向けた取り組みについて（案）
◇コンパクトシティ形成に向けた「立地適正化計画」
及び「地域公共交通網形成計画」の策定について
 - ・参 加 46 人

- また、この説明会に先立ち、11 月 30 日～12 月 16 日の間、各民間関係団体に個別説明。

- 説明会及び個別説明時の、各団体等の発言・意見等の概要は別紙 2 のとおり。

2 「計画（たたき台）」に関する説明会

- 「立地適正化計画（たたき台）」等について、民間関係団体（別紙 1 の団体）向けに説明会を実施。
 - ・日 時 平成 28 年 2 月 19 日（金）9：30～10：30
 - ・場 所 生涯学習センター3F ホール
 - ・配布資料 ◇コンパクトシティ形成に向けた取り組みについて
「北九州市立地適正化計画」（たたき台）
「北九州市地域公共交通網形成計画」（たたき台）
 - ・参 加 11 団体・16 人（商業・経済分野 1 名、住宅・建築分野 13 名、
保健・福祉・子育て分野 1 名、住民・地域分野 1 名）

- 各団体等の発言・意見等の概要は別紙 3 のとおり。

民間関係団体等一覧

対象団体		
商業・経済	1	北九州商工会議所
	2	北九州商工会議所女性会
住宅・建築	3	北九州住宅産業協議会
	4	北九州住宅懇話会
	5	福岡県宅地建物取引業協会北九州支部
	6	全日本不動産協会福岡県本部
	7	全国賃貸住宅経営者協会連合会北九州支部
	8	北九州建築設計監理協会
	9	福岡県建築士事務所協会 北九州支部
	10	北九州市住宅供給公社
	11	福岡県住宅供給公社
	12	UR 都市機構
	13	住宅金融支援機構
保健・福祉・子育て	14	北九州市医師会
	15	北九州市歯科医師会
	16	北九州市薬剤師会
	17	北九州市保育所連盟
	18	北九州市私立幼稚園連盟
	19	北九州市 PTA 協議会
住民・地域	20	北九州市自治会総連合会
	21	北九州市女性団体連絡会議
	22	北九州市社会福祉協議会
	23	北九州市老人クラブ連合会
	24	北九州市障害者団体連絡協議会

「コンパクトシティ形成」に関する主な意見等

1. 商業・経済分野の団体

- 都心部に誘導する結果生じる郊外の空き地を有効活用することができるのでは。
- 都心部への誘導を進めても、都心部は地価が高いため、点在する空き地はなかなか埋まらないのでは。そのような都市部の点在する空き地を単に駐車場等にするのではなく、活用策を考えるべき。
- このような取り組みは、空き家対策、高齢者施策等が中心になりがちだが、若い人目線で子育ての観点から計画を策定することが重要。

2. 住宅・建築分野の団体

- 住宅は、需要者の様々な価値観の判断により選択されるので、区域内に誘導するのは難しいのでは。
- 供給側はすでにコンパクトなまちづくりの方向性ですでに動いているとも考えられる。ただし、街なか（区域内）への移転促進は望ましいものの、インセンティブがなければ難しいのではないか。
- 若い人が住みたいというまちづくりの計画・方針が見えてこない。若い人に魅力あるまちづくりを考慮して計画作りを行って欲しい。
- 居住誘導区域や都市機能誘導区域に入るかどうかにより、届出・勧告ということになると団体としては気になるところ。
- 北九州市は非常に住みやすいが、若者が少ないと感じる。若者が住みたいという街を目指すべき。
- 誘導区域外に住んでいる独居高齢者などが転居したいという場合に公営住宅などに一時的に住まわせるなどバッファとなるものや、リバースモーゲージ、資金のやりくりなどの方策が必要なのでは。

3. 保健・福祉・子育て分野の団体

- 効率性という観点から言えば、コンパクト化は望ましいと思う。

- 街なかが便利になり人が集まることのメリットは理解できるが、(大規模を除く) 関係施設は、人が居る場所に立地していくもの。逆はあり得ない(誘導施設とはなり得ない)
- 財政的に行政が対応できることには限界があり、市民ができる事はやらなければならない時代とは思いますが、区域内外で格差が生じることにならないか。家屋や土地に愛着があったり、人とのつながりで動けない人もいるのでは。
- 市の保健福祉分野の計画・施策と連携を図ってほしい。
- 若い世代は、郊外などに家建て、大きな車で幼稚園に通園させている人も多い。ベビーカーを利用する場合、公共交通が利用しづらい、道路が歩きにくいという声も聞く。高齢者は街なか、若い人は郊外になど、住み分けができれば良いと思う。

4. 住民・地域分野の団体

- 地域包括ケアシステムにおける地域共助の担い手として、老人クラブや自治会などが関係していくこととされているが、これら団体への若い人の参加が少ない。高齢者が高齢者を支えていくことは難しいと考えている。
- 自治会には、若い人ほど参加していないような状況。若い人が高齢者を支えるような仕組みが必要なのでは。
- コンパクトシティの計画策定にあたっては、都市計画分野だけでなく、地域包括ケアシステムを担当している保健福祉局やまちづくりの観点からいえば市民文化スポーツ局など関係分野の部署とすり合わせをしながら、全体的なまちづくりの視点で計画を策定していただきたい。
- コンパクトなまちづくりを進めていくために、居住誘導区域を設定した場合、特に区域から外れている地域でコミュニティーの崩壊が起こらないか心配。その土地で暮らさざるを得ない状況の人も考慮して、計画を策定して欲しい。
- 横断的・総合的な取り組みにおいては、市民意見を反映させるパブコメをできるだけ早く実施すべき。

計画（たたき台）に関する主な意見等

- 郊外部の住宅を減らしても、土地が残り、固定資産税等がかかるので、その対応も考える必要があるのでは。（住宅・建築分野の団体）
- バス利用者を増やす取り組みとして、バリアフリー化などの施設整備を行うとのことだが、そのような整備よりも、都心部に流入するマイカーを制限するなどの施策を行ったほうが効果があるのではないか。（住宅・建築分野の団体）
- バス交通のバリアフリー化は推進されてきていると思うが、車内音声テープと運転手の声が輻輳するなどのソフト面が改善されていない。バス事業者に改善を促す強い仕組みを作れないのか。（住民・地域分野の団体）
- 北九州市が発展しないのは、環状線がないからと考える。車中心社会となっているので、改善したほうがよい。（住民・地域分野の団体）
- 公共施設マネジメントの公共施設削減と立地適正化計画の誘導区域の設定が連携していることを分かりやすく説明してほしい。（住宅・建築分野の団体）
- 誘導区域へ誘導するためのインセンティブについて、具体的に示してほしい。（住宅・建築分野の団体）